



Avid Everywhere

メディア業界の将来展望

Avid Everywhere

メディア業界が迎えるかつてない変革の時代

今日のメディア業界では、コンテンツの制作方法から、その保護、最適化、配信、分析の管理方法にいたるまで、メディアのバリューチェーン(価値連鎖)全体に変革の波が押し寄せています。この変化は、メディア企業やプロフェッショナルにとって、大きなプレッシャーとチャンスを生み出しています。これらの課題を受け、市場動向は主に3種類に分類することができます。

メディアのバリューチェーンにおけるデジタル化の加速

テクノロジーは生活のあらゆる面でデジタル化を促進してきました。よりダイレクトに、効率的に、そしてパワフルに繋がりたいという社会的欲望が、メディア業界にも影響を及ぼしているのは驚くべきことではありません。しかし、この加速するデジタル化傾向はメディア業界に大きな影響を与え、何十年も変わらずにいたバリューチェーンをも根本的に変えようとしています。つまり、バリューチェーンにおけるクリエイティブな側面が、ビジネス(収益化)の側面と融合して、相容れなかった2つの要素が否応なく繋がれることで、制作から消費までのあらゆる段階で、よりインタラクティブでパワフル、しかも効率的に結合する機会がもたらされます。

デジタル的かつ直接的に、個人の好みでアイデアをつなぎ合わせてコンテンツを作ることは、業界が経験したことのない新たな課題を提示します。企業は、制作から消費までのワークフロー全体を繋ぎ、自動化する必要性に迫られています。他部門と関わらない旧態依然の既存の技術的解決策のままでは、業界の緊急課題から益々離れていってしまいます。一方で、デジタル化によってコンテンツ制作のハードルは下がり、広告や視聴率の競争は激化しています。その結果、シームレスに統合されたワークフローへのニーズがかつてないほど高まっています。これは、単にビジネス効率の問題ではありません。対応しなければ、メディア連鎖において長期的な役割を得ることができないかもしれないという大きなリスクがあるのです。

”デジタル的かつ直接的に、個人の好みでアイデアをつなぎ合わせてコンテンツを作ることは、業界が経験したことのない新たな課題を提示します。”

Avid Everywhere

“一般消費者向け”のコンテンツ制作・配信

消費者がいつ、どこで、どのようにメディアを楽しむかを、コンテンツ制作者が決めている日々は過去のものとなりました。今日、かつてないほど洗練された消費者は、あらゆるデバイス、あらゆるフォーマットで、コンテンツをいつでもどこでも作り、視聴することができます。コンテンツが一般消費者を対象とすることで、フォーマット、配信チャンネル、デバイスは急増し、コンテンツから収益を上げるためのコストと複雑性は増大しています。また、進化するテクノロジーにより、コンテンツや配信モデルのカスタマイズや、より高度な消費者分析が可能になりました。その結果、全ての要因から、消費者の財布と視聴率を争う競争は激化しています。同時に、今では視聴のパターン、プロフィール、指向性を理解して、以前には想像しかできなかった方法でデジタル・アセットを収益化する機会が増えています。

効率的な運用への厳しい圧力

メディア業界全体にわたり、トップレベルの収益成長率の追求とコストへの厳しい圧力は、支出の優先順位に大きく影響しています。IT予算が僅かに上昇する一方で、投資の戦略的優先順位は、制作ソリューションから、コンテンツの収益化、保護、再利用、最適化の課題解決へと変化しています。高品質でブランド化されたアセットの制作、保護、配信において、技術や収益化は複雑性を増し、企業はそれらを解決する刷新的な方法を模索しています。技術統合、ベンダー管理、相互運用の課題は、既に限られている柔軟性、敏捷性、新技術をさらに困難にします。業界において、刷新的な考え方の必要は明白です。

現在の市場動向

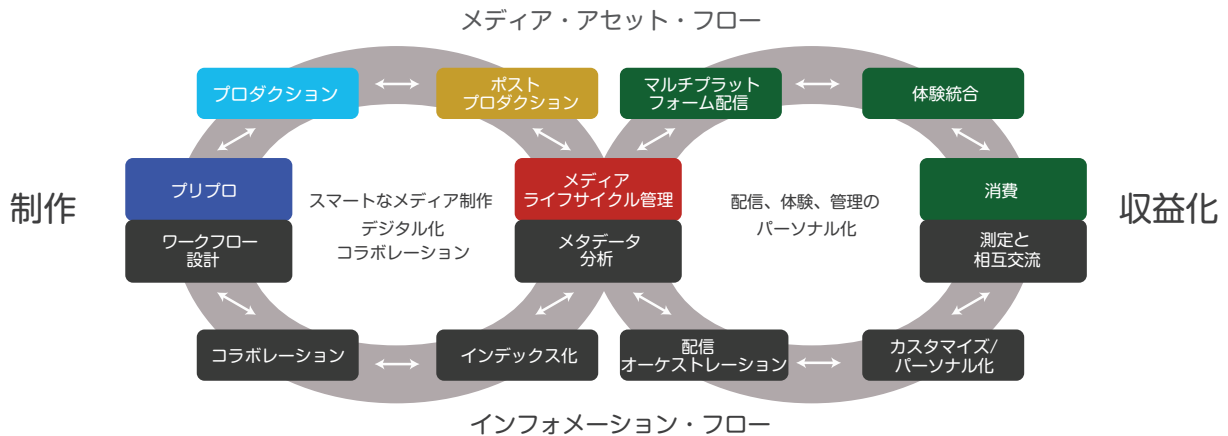
デジタル・メディアの急増により、増え続けるコンテンツ量を管理するシステムの必要性が高まっています。 — フロスト&サリバン

ITエンドユーザー企業800社のアンケート調査によると、画像や動画の管理ソフトウェアは、コンテンツ管理の市場において、最も急成長している分野です。

— ガートナー

エンターテインメントおよびメディアへの世界支出は、複合年間成長率5.7%で上昇し、2016年には2.1兆USドルになると予測されています。 — PwC(プライスウォーターハウスクーパース)

新しいメディア・バリューチェーン



これらの複合的な圧力により、メディア業界のバリューチェーンは劇的に変化してきました。過去、企業は、プリプロ、制作、ポストプロダクション、配信、納品を通して、各工程間で既定の受け渡しを行いつつ、コンテンツを移動する直線的なバリューチェーンを採用してきました。今日の現場では、以前の直線的なバリューチェーンとは違い、コンセプト構築から視聴まで、デジタル・アセットをコントロールできる流動的でインタラクティブな多重工程へと変化しています。

従来のバリューチェーンの変化に加えて、デジタル技術は、コンテンツの評価や分析について興味深い機会を創出しています。企業は、メタデータの解析を用いて、消費者がなぜ、いつ、どのようにメディアを利用するかを研究することができます。コンテンツの制作工程に即時フィードバックを組み入れて、制作者は、消費者のニーズ、指向、傾向に合わせてコンテンツを調整することができます。

今日の環境における課題やチャンスをつまみ、メディア企業が勝ち抜くためにできることは何でしょうか？

"これは、もはやバリューチェーンではありません。これは、特定の業界課題に真剣に取り組む関係者を繋ぐエコシステムです。"

— PwC

Avid Everywhere

今日の環境で勝ち抜くには

企業の成功する力は、如何に新たなビジネスの現実に積極的に適応できるかによります。多くの企業は、戦略的構想を実行するためのツールに苦しむだけでなく、コンテンツ制作と配信について、各部門が孤立する旧態依然の考え方が染み付いた組織構造にもがいています。

メディア・アセットのデジタル化の加速、“一般消費者向け”のコンテンツ制作および配信、効率的な運用への厳しい圧力によって生じる課題から、メディア企業には5つの特有のニーズが生まれています。

コンテンツの制作と収益化プロセスを統合する

新たなデジタル環境において、コンテンツの制作と収益化のプロセスは互いにリンクしています。コストへの圧力と、納品物の最適化処理の増加をうけ、ワークフロー全体にわたってパワフルで効率的かつ柔軟な単一の統合ソリューションが重要視されています。メディア企業の中心課題は、制作と営業が一つのチームとして機能するよう協調し、会社全体で戦略の実践を可能にする技術ツールを持つことです。

高品質で魅力的なコンテンツを作り出す

バリューチェーンが変化する一方で、コンテンツが重要であることに変わりはありません。急速に進化し、視聴者を参加させる新たな手段を試みる市場では、素晴らしい視聴体験を提供する高品質のコンテンツこそ、視聴者参加を促す最強の推進力になります。スタジオ、チャンネル・プログラマー、放送局が洗練された視聴者を獲得するには、制作、アセット、ワークフロー管理の専門システムを通じて、高品質なコンテンツを制作、フィニッシング、配信する必要があります。

AvidおよびOvum社による業界調査

Avidは、業界トップの調査会社Ovum(オーバム)社に委託し世界的調査を委実施しました。メディア企業と消費者双方からの見識を求め、我々のコミュニティが、業界で起こりつつある変革を理解し、予測し、機会を捉えられるよう手助けすることを目的としています。

バリューチェーンが変化する一方で、「コンテンツが重要である」ことは変わらないと、調査結果は示しています。消費者の65%は、楽しみの主要素として視聴体験を挙げています。

加えて、企業が適切にメタデータ戦略を履行すれば、メディア・アーカイブで利益を得ることが可能だと調査は示しています。消費者の37%は、アーカイブから好きな番組を見るためにお金を払うと答えています。メディア制作者は、消費者の支払い意欲を活かして、アーカイブの33%程度は収益化できると考えていますが、ほとんどのメディアアセットがアクセスできない状態にあると話します。

Avid Everywhere

シームレスな協業ワークフローを活用する

消費者がコンテンツを視聴する場所や方法に縛られなくなったように、メディア企業も、社内施設に作業の場を限定されなくなっています。メディアのプロフェッショナルには、どこからでも協力してコンテンツを制作、共有、保護、最適化、配信することができるツールが不可欠です。クラウド技術は卓越したツールですが、ベンダーが決めるのではなく、企業自身がその企業にとって最適な環境を作り上げる選択肢を持つべきです。どこにいても継続的かつリアルタイムに繋がらう環境を実現すると、分散型や複雑なワークフローが可能になります。そのためにも、メディア企業は、統合された単一のプラットフォームで、コンテンツの制作と配信に対する幅広い需要に、効率的かつ簡単に対応できるソリューションが必要です。

メディア・アセットの価値を保護および最適化する

ビジネス・モデルの大きな変化に対応するには、メディア企業やプロフェッショナルは、アセットを素早く、低コストで活用できなければなりません。つまり、複雑なビジネス環境にある企業では、コンテンツの制作、アクセス、配信、収益化を素早く低コストで行うことが必至です。これを効果的に実現するには、アセットが保護されていて、必要な時にすぐ利用でき、簡単かつ効率的に再利用できる必要があります。従来のバリューチェーンを踏襲する幾つかのベンダーは、企業と消費者を隔離するだけでなく、統合や相互運用に多くの資本を費やすことになり、今の環境ニーズに適応しません。

業界エキスパートと提携する

既存および将来の課題をしっかりと解決し、業界の技術革新をリードし続けるため、メディア企業には、業界の最も複雑な問題を解決してきた実績を誇り、長きにわたり業界へ投資してきた歴史を持ち、深い業界見識を提供する技術パートナーが必要です。

業界競争をリードする

かつてない変化が無数に起こるメディア業界では、方向を示し、前進するリーダーが必要です。Avidは、独自の立場からこの役割を担います。四半世紀を超える長きにわたり、成功を収めたメディア企業や創作のプロフェッショナルと共に働いてきたAvidは、業界に必要なことを独自の観点から考えます。今日我々が直面する途方もない課題を克服するためには、オープン性、柔軟性、最先端技術、包括性の融合が不可欠です。そのメディア業界の戦いの陣頭指揮を執ることができるのは、Avidだけです。

その目的においてAvidは、この激動の時代を切り抜けることをサポートする戦略的ビジョンを示しています。このビジョンはAvidだけのものではなく、メディア業界全体に向けたビジョンであり、あらゆる人たちと共有することを意図しています。

お客様の主な課題

Avidでは、トップメディア企業から、各企業のビジネスに大きく影響する課題について話を聞きました：

お客様： 大手映画スタジオ

主な課題： 制作部門と営業部門の融合;アセットの収益化

お客様： 多国籍報道機関

主な課題： 新技術の素早い利用が可能で、将来にわたり信頼できるインフラストラクチャ

お客様： ローカルのニュース放送局

主な課題： 番組の質の向上と運用機会の拡大;現場からニュースルームへのアクセス

お客様： ネットワーク系テレビ局

主な課題： セキュリティ、柔軟性、特性、可能性を犠牲にすることなく、刷新的で低コストな技術の活用

Avid Everywhere



Avid Everywhere

全ては一つの考えから始まります。

誰もが自分のクリエイティブなアイデアを概念化し、作品を制作し、収益化して、他の人に配信することができる世界、そして、作品が世界中のコミュニティで視聴されることを想像してみてください。そこでは、バリューチェーンにおける制作と消費の部分を繋ぐ共通のプラットフォームを共有し、単一の統合フレームワークと融合され、人々のニーズに柔軟に適合します。

“Avid Everywhere”は、よりパワフルで効率的、協業的かつ収益の上がる方法で、制作のプロフェッショナルやメディア企業を視聴者と結びつけるという、このプロセスを促進するためのビジョンです。Avid Everywhereを実現するために、Avidは、業界で最も円滑なエンドトゥー・エンドの分散型メディア制作環境であり、デジタルメディアの新たなバリューチェーンのあらゆる面を包含する包括的エコシステムの構築を目指します。

それは、メディアのバリューチェーン全体を支援する基本的なメディア・サービス、接続性、調整能力を提供する共通のサービス・プラットフォームからスタートします。プラットフォームは、Avidやその他のベンダーからの技術を統合するオープンで拡張的な環境を促進します。コンテンツ制作者や配信者は、それぞれの段階で選択するベンダーやツールに関係なく、共通標準に沿ってメディアを制作、管理、配信、収益化する能力を得ます。

モジュラー式アプリケーションは、共通サービス・プラットフォームを基礎とします。Avidは、制作ワークフローの中での制作アセットの共有、コラボレーション、管理、カスタマイズを実現する業界トップのアプリケーションを提供します。さらに進んで、Avidではこれを拡張し、バリューチェーンにわたりメディア制作と収益化を結びつけて、コンテンツ制作者が完成したアセットを保護、暗号化、再フォーマット、配信、再利用したアセットの価値を最大限に高めるアプリケーション、収益化ツールを加えます。

“Avid Everywhere”は、よりパワフルで効率的、協業的かつ収益の上がる方法で、制作のプロフェッショナルやメディア企業を彼らの視聴者と結びつける、制作の寄与者が発想に命を吹き込み、世界と共有することを支援するAvidのビジョンです。

Avid Everywhere

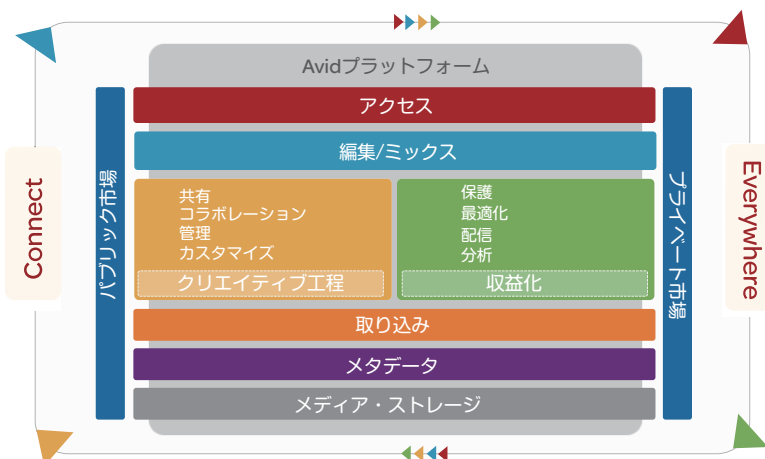
プラットフォームへのアクセスに、“Avid Everywhere”では包括的なアクセスレイヤーを提供します。アクセスレイヤーは、メディアのバリューチェーンに関わる誰もが適切なコンテンツ、ワークフロー、アプロケーションへ、いつでもどこからでもアクセスできるWeb、モバイル、デスクトップ機器共通のインターフェースです。

業界をリードするAvidの編集およびミキシング用ツールは、Avid Everywhereの重要な要素です。遠隔地からの協業、メディアへのアクセス、デジタル権利の管理等、バリューチェーン全体にわたり、共通サービスとメディア管理モジュールを活用し、コンテンツ制作者は、非クリエイティブなタスクをバックグラウンドで処理できるため、制作に集中することができます。

メディアの収録時、メタデータに関する確実なタグ付けと管理は、バリューチェーンを通じてアセットの潜在能力をフルに生かすために重要です。Avidは業界の先頭に立ち、カスタマーコミュニティと密接に協力して、メタデータ追跡システムの新基準を構築しようとしています。メタデータはアルゴリズムで生成され、極めて詳細なレベルの情報を提供し、ライフサイクルのあらゆるステージで柔軟にアセットを見ることができるようになります。

“メタデータは、新たな音楽エコノミーの絶対的な中枢です。収益の流れが断片化し、グローバル性を増す多様な市場の中で、収益を供給し、効果的にアーティストに支払うためには不可欠なものです。その結果、業界と制作者にとって、適切であること、そして、契約からスタジオ、市場まで音楽のライフサイクル全体を通じて適切であることが、決定的に重要です。

-バラク・モフィット
エグゼクティブ・バイス・プレジデント、
ユニバーサル・ミュージック・グループ



Avid Everywhere

Avid Everywhereのメディア格納ソリューションでは、高度に最適化した制作ストレージをオープン・ストレージおよびテープ・ライブラリと組み合わせ、容易にメディアをアーカイブおよび抽出することができます。

Avid Everywhereの最後の要素は、市場です。我々のビジョンは、パブリック市場とプライベート市場の両方において、完成したアセットの収益化、人材の管理、プロジェクト協業のための能力をメディア制作者に与えることを目的としています。全ては、アクセスの完全制御、暗号化セキュリティ、認証ツールを伴う共通のサービス・プラットフォームで可能になります。

Avid Everywhere: 今日そして明日の課題を解決する:

メディア業界が直面している急激な変化は、ビジネス・モデルへ大きな圧力をかけています。企業が成功する可能性は、新たなメディア業界のバリューチェーンの中でどれだけ効率的に働くことができるかにかかっています。

Avid Everywhereビジョンは、世界で最も成功しているメディア企業とのAvid独自の経験を活かして、業界の現在および将来のビジネス課題を理解し、コミュニティを成功へと導く新たな技術、ワークフロー、標準を予測します。さらに、Avid Everywhereの中心では、既に開発された数多くの技術が使用されています。このビジョンは、Avidのオープン性と最先端の技術革新からの自然な流れを示すものであり、そこから離れるものではありません。

オーディオやビデオ技術への関心が薄い企業と違い、Avidはメディアのプロフェッショナルの戦略的ニーズ解決に専心しています。また、メディアの新たなバリューチェーンが急速に進化する中で、業界に影響を与える変化を常に評価しています。最終的に、Avidは、現在そして将来、制作のプロフェッショナルが個人的またはプロとして成功するために必要とする全てのものを彼らに与えることで、世界最大を誇るAvidコミュニティのさらなる発展、強化と、社会的な力の獲得に取り組んでいます。

どうぞAvidコミュニティに参加して、我々と共に関わり、業界の将来を一緒に築いていきましょう。



アビッド テクノロジー株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館ビル4F

www.avid.com/jp

Avidについて

"Avid Everywhere"を通じて、Avidは、栄えある賞に輝く映画作品、音楽録音、テレビ番組から、ライブコンサートツアーやニュース番組にいたるまで、世界中が観て、聴いて、愛するメディアの共同制作、アセット保護、配信のためのデジタルオーディオとビデオテクノロジーを開発し、業界で最もオープンで、革新的かつ包括的なプラットフォームを提供します。Avidの最も有力で先進的なソリューションには、Media Composer®、Pro Tools®、Interplay®、ISIS®、Sibelius®などがあります。Avidのソリューションおよびサービスについて、詳しくは www.avid.com/jp、[Flickr](#)、[Twitter](#)、[YouTube](#)をご覧ください。また、Avidの[Facebook](#)ページ、音楽や映像制作に役立つ情報をお届けするAvidブログ ([Music Blog](#)、[Video Blog](#)) もどうぞご利用ください。

©2013 Avid Technology, Inc. All rights reserved. Avid Technology, Inc. 無断複写・転載を禁じます。製品の機能、仕様、システム要件、および販売形態は、予告なく変更されることがあります。Avid、Avidロゴ、DNxHDは、アメリカ合衆国あるいはその他の国におけるAvid Technology, Inc.やその子会社の登録商標または商標です。そのほか本書に記載されている商標はすべて、各所有者に帰属します。

AEWP0913

